

STOP NES PRESSURE



ネスレが皆さんに絶対知ってほしくないこと：パンジャンストライキの事実

ネスレは、組合員の大量解雇は会社財産に与えられた犯罪的な損害に対するものだと主張している。しかし警察の調査で、犯罪的損害はなかったため刑事告訴の根拠はないと結論付けられた。10月12日に生産が再開された時、機械の修理や取替えの必要はなく、何の問題も起こらなかった。ネスレはその代わりに原料の損害に焦点を当てた。これはネスレが現地政府と警察に再三申し立てたことである。ここでも警察は犯罪に当たる損害を見つけられなかった。原料が損害を受けた時、つまり9月22日に450キロの砂糖とクリーム粉入りコーヒーミックスの袋が倒れ、9月28日に焙煎器の生豆と液体コーヒーが台無しになった時だ。

9月22日に組合代表が会社の安全担当者に（組合によるストライキ通告に従い）ストライキが始まったのでラインに原料を乗せるのを止めるように、また機械を止めるように繰り返し頼んだ。この警告にも関わらず、経営者とスーパーバイザーは、ラインに原料を乗せ続けた。その結果、コーヒーミックスの袋が損傷した。

経営者が前日に会う約束を反故にした後、9月28日に組合員は穏やかな工場占有を再開した。SBNIPの組合員が出勤した時、経営者が作った偽の組合の組合員が機械の持ち場を離れた。生豆を炒るコーヒー焙煎器の持ち場からも離れた。組合員は、スーパーバイザーと第一ラインマネージャーに持ち場に誰もいないのに焙煎器をつけっぱなしにしておくことは危険だと知らせた。第一ラインマネージャーは、安全性の理由から焙煎器を止めることに合意し、そして手続きに従いそれを行った。しかし焙煎器を早く消したために生豆は一部焙煎されただけで、損害を被った。同じ日に大量の液体コーヒーが損害を被った。組合は、ボイラーを消すのですべての原材料を止める必要があると経営者に通告した。（9月22日と同様に、この日は何の影響もなかった）しかし、担当の経営者が、組合の警告を無視して、原材料を足し続けた。そしてボイラーが消された時、大量の液体コーヒーが台無しになった。